

新得駅前再整備に向けて代表者らが集まった初会合

が参加。推進組織の会長に金田副町長、副会長に町商工会の湯浅悟史会長を選出した。

今後は庁内事務レベル委員会がまとめた案をたたき台として毎月1回のペースで開き、11月までに基本構想をまとめる方針だ。

駅前再整備は2015年に法政大の学生らが構想案をつくり、昨年には町商工会が中心となって検討案を提示してきた経緯がある。
(菊地信一郎)



新得駅前再整備 課題や機能協議 推進組織が初会合

【新得】JR新得駅前の再整備・活性化を考える「駅前周辺再整備推進組織」の初会合が7日、町役場で開かれた。

はじめに金田将副町長が「住民の交流の場として、また観光客にも印象に残るような駅前づくりに取り組みたい」とあいさつ。再整備に伴う課題の整理や必要な機能について協議を重ねたいと述べた。

会合には金田副町長のほか町議、新得警察署、JR、商工会、農協、観光協会、建設協会の代表者ら計9人

駅前11月に基本方針

新得再整備へ検討会議初会合

【新得】JR新得駅周辺の活性化について関係機関が協議する「駅前周辺再整備推進組織」の第1回検討会議が6日、町役場で開かれた。駅前に求められる機能や再整備に向けた課題などを話し合い、11月に基本構想を取りまとめる。

再整備に向けては、町商工会が住民との意見交換やアンケート結果を踏まえ、昨年5月、複合商業施設などを核とする複数の再整備案を提案。事業の具体化に向けて町を交えた推進組織の設置を求めている。商工会の提案を受け、町が庁内検討を重ね、この日の会議でたたき台を示した。たたき台では、駅東側の



新得駅前再整備について協議する関係者

再整備する。今後の会議で必要な機能の精査や施設の配置などを検討していく。

基本構想は8月下旬に案をまとめ、意見公募（パブリックコメント）を経て策定する。2020年度に

基本設計、21年度に実施設計、22年度に着手し、23年10月供用開始を目指す。

町、町議会、新得署、JR新得駅、町商工会、JA新得町、町観光協会、新得建設協会の町内8団体の代表者で組織。会長は金田将副町長、副会長は湯浅悟史町商工会長が務める。金田副町長は「住民が交流でき、観光客の印象に残る駅前づくりを目指していきたい」と話している。（丹羽恭太）